

9月  
議会定例会新地域おこし協力隊着任  
新型コロナウイルス感染症対策事業経過報告

9月議会定例会が、9月10日から18日までの7日間にわたり開催され、条例の制定や令和2年度各会計補正予算案などの14議案と報告2件、諮問1件、認定1件の計18件が提案、可決されたほか、令和元年度歳入歳出決算について認定されました。



県北地区は「やや良」と見込みまわっています。

今年の米の概算払金額は、9月11日に開催される全県JA組合長会議で決定されますが、JAあきた白神独自の加算金も含めた金額は、今後検討のうえ決定されるということです。

次に、今年で11年目を迎えたリンドウは、栽培面積336.3a（内採花面積306.6a）で、8月14日までの販売においては、出荷本数294,820本、販売額11,435千円で、昨年同期と比較し、本数では8,170本増加したものの、販売額は1,456千円程下回っています。

これは、昨冬がまれにみる少雪であったことから、開花が早まり、お盆前の最需要期を前に出荷量のピークを迎えたことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市場単価が低迷したことが大きな要因となっています。

現在は、需要期の秋彼岸に向けて栽培管理をしています。これも開花期が前

倒しになる懸念があることに加え、コロナ禍の影響による需要の減少や価格の低迷も考えられることから、栽培農家への支援対策を指示しているところです。

次に、白神ラムの飼育状況については、今年の出生子羊120頭のうち、ラム肉用を60頭、ホゲット向け15頭として、45頭を繁殖育成に向ける予定です。

次に、ニホンザルによる農作物の被害防止についてですが、今年は6月中旬ごろから出没が確認され、随時追い払いに当たっており、7月からは鳥獣被害対策実施隊による週末の巡回や、檻・かかしの設置により、9日までで檻の捕獲が6頭、巡回時捕獲が3頭となっています。

ツキノワグマにつきましては、目撃・出没が6月下旬から町内各地区で頻繁になつていきます。農作物の被害が多い場所や、人的被害が懸念される場所に檻を設置して捕獲に努めており、9日までで4頭を捕獲しています。

しかしながら、1度捕獲した場所への別のクマの出没、同じ場所での農作物への連続した被害が出ていることから、引き続き5箇所へ檻を設置するとともに、巡回の強化、夜間監視カメラの設置などで、クマの生態を把握し、捕獲方法の検討をしているところです。

県内ではクマの頻繁な出没が続いていることから、秋田県知事によるツキノワグマ出沒警報発令期間が9月30日まで延長されています。これからの採りのシーズンとなり、山に入る機会が増え、クマと遭遇する確率も高くなることから、看板設置や防災行政無線を活用した広報により、注意喚起をしていきます。

◆藤里町第二セクター等の  
あり方検討委員会について

このたび検討結果が報告されましたので、報告いたします。

それぞれの部門において町の活性化には必要であると判断し、運営に努力されてきたことは理解できるが、厳しい財政状況を鑑みれば、これまで以上に強く危機意識を持ち運営改善に臨むことを前提とし、状況によっては規模を縮小した運営や事業の譲渡を検討する時期ではないかという意見も報告されています。

町としても、この検討結果も踏まえた上で、今後の方針について、皆様と協議しながら、方向性を見出していきたいと考えています。

次に、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、町内の消費喚起を促し、地域経済の活性化を図ることを目的とした「お買い得商品券」への助成ですが、商品券は9月1日までで5千セットが完売し、食品などの小売りを中心に、車の整備などサービス業などでも利用されているようです。

また、8月から実施しています「宿泊助成事業助成金」ですが、9月1日現在

## 行政報告

## ◆稲作の作柄状況ほか農業関係

稲作関係については、8月24日現在における能代山本地域の水稻の生育状況は、 $m^2$ 当り穂数は452本で、平年比102%とほぼ平年並みとなっています。1穂当たりの着粒数は77.7粒で、 $m^2$ 当りの着粒数は3万5千37粒で、いずれも平年比103%と平年並みとなっています。

なお、東北農政局発表、8月15日現在における秋田県の作柄概況によりますと、